

資格ガイドライン・規程

国際ボランティア実務士

一般財団法人全国大学実務教育協会

資格ガイドライン

A	本協会の資格改革の考え方編	1
B	教育課程編成のしかた編	5
	「国際ボランティア実務士」資格教育課程編成	5
C	資格到達目標達成度評価制度の運用編	13

資格認定規程

国際ボランティア実務士資格認定規程	29
-------------------	----

資格のガイドライン（**A** 本協会の資格改革の考え方編）

1. 本ガイドラインの概要

このガイドラインは、本協会の資格改革の基本的な考え方に基づいて、当該大学が資格認定を受けようとする場合はむろんのこと、現行の場合も該当するものとして、それぞれについて記載している。したがって、ガイドラインは「A. 本協会の資格改革の考え方」、「B. 資格ごとの教育課程編成のしかた」、「C. 資格到達目標達成度評価制度の運用」、この3つの構成からなっている。

はじめに、本協会の資格改革の経緯について、その概要を述べると、「実社会の変化に対応する実務教育・キャリア教育に係る認定事業を推進し、その質保証をはかる」ため、会員校のご協力のもと、2013年度から中長期的な視点をもって資格改革の取り組みを始めた。第一弾「資格教育課程の見直しと到達目標の明確化」、第二弾「実践キャリア実務士教育課程から始める到達目標達成度評価制度による質保証方法導入の試行検討」、第三弾「全資格の到達目標を達成する教育課程編成と学修成果の可視化の整備」に段階的に取り組みを続け、2023年度までに外形的整備を終える予定とした。それ以降は、第四弾「大学と実社会をつなぐ全資格について、継続的な内容充実化と質保証の実質化」として、長期間の実現を見通している。

この段階的な取り組みは、現在、下記②まで進んでいる。

①資格到達目標のもと資格教育課程編成、または再編に取り組むこと。（2013年度から開始）

②資格到達目標達成度評価制度の整備をする。（2016年度から開始）

この評価制度は、資格教育課程評価の学修成果を、大学教育の単位修得結果と学生自己評価を一連の評価制度として行うもの。この学生自己評価は、協会標準型（※¹）または当該大学が独自に開発した大学独自型（事前提出）のものとし、いずれもルーブリック（※²）を活用する到達目標達成度評価表（※³）で行うこと。（2023年度までに整備予定）

③資格の内容充実化と質保証の実質化を実現する資格改革は、これからも長期的、継続的に取り組むことにする。（2040年度を目途に）

（※¹）協会標準型の到達目標達成度評価表は、ガイドライン C の「資格教育課程履修の学生配布用資料」として添付の到達目標達成度評価表を参照のこと。

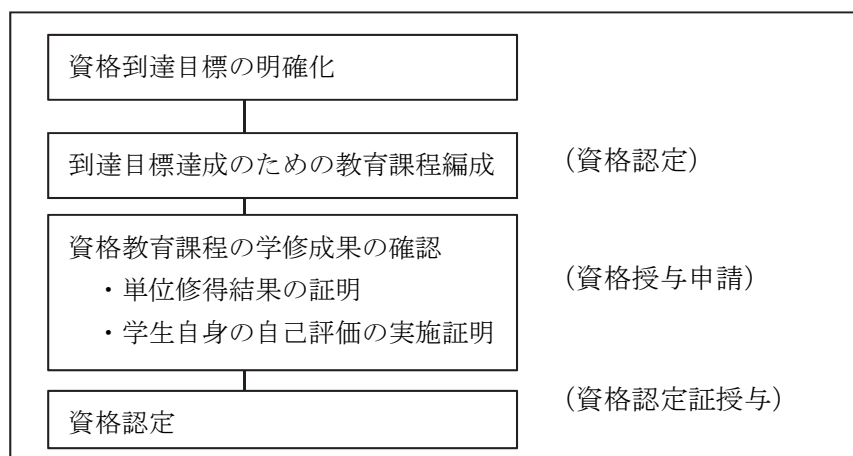
（※²）ルーブリック（rubric）とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学修するのかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。（中教審大学教育部会 2011年12月9日 説明資料より）

（※³）到達目標達成度評価表およびその運用については、資格ガイドライン「C. 資格到達目標達成度評価制度の運用編」を参照のこと。

2. 資格到達目標達成度評価制度の基本的考え方

本協会の資格認定を受けるにあたって、各大学および短期大学（以下、「大学」と称する）は、協会が定める到達目標とそれを実現する教育課程編成方針に沿って、まず到達目標（開発能力を明示）および具体的な学修目標を策定し、それらを達成する教育課程を編成する必要がある。そして資格授与申請には、この教育課程で学んだ学生各位の学修成果を単位修得結果で証明することに加えて、この教育課程を所定の到達目標達成度評価表で「学生自己評価」を実施すること、この両方を求める。この一連の取り組みを「資格到達目標達成度評価制度」と称し、この制度の導入によって、協会資格の有用性を可視化できると考えている。とりわけ学生自己評価による学修体験が自身の学修継続力を高める一助になり、また当該大学の教育と実社会をつなぐ教育課程の特色を一層鮮明にできると捉えている。

資格到達目標達成度評価制度と協会資格



(1) 協会が示す「到達目標」はどのように策定しているのか

本協会は 1973 年の発足以来、教養教育や専門教育と調和した“実務実践教育”を追求し、大学が担う人材育成に役立つことを目的に活動してきた。その間、就職先、卒業生、教員を対象とする調査研究を実施し、教育目標や教育課程の改善など新たな提案をしてきた。

しかし今、働く現場が常に変化しており、これまでにない新たな問題が起き、複雑な様相を呈している。この予測困難な時代において実務を担うには、汎用的能力や専門領域の知識・スキルの修得にとどまらず、「多様な職業能力の基盤となる課題発見力・創造的解決力と学び続ける力」の修得が重要になっている。そこで 2013 年度から協会資格の資格到達目標を見直して、これまでの人間力を備えた汎用的能力や専門的知識・スキル・態度に加えて、大学教育のベースにおく課題発見力・創造的解決力、学びの継続力（＝総合的実践力）を前面に打ち出す資格到達目標を明確化して、大学と実社会をつなぐ資格教育の実現を目指している。

(2) 協会が示す「資格教育課程の基本的な枠組み」とは

資格教育課程編成の指針となる「資格教育課程の基本的な枠組み」は、次の 3 つの領域からなる。1 つめは「その資格に必要なキャリア・教養を含む基礎的な知識・能力と社会人基礎力」の領域、2 つめは「その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力」の領域、3 つめはどんな働き方になってもその基盤となる「その資格全般に係る課題発見力・創造的解決力と学びの継続力（＝総合的実践力）」の領域である。なかでも、この 3 つめの領域の能力は、大学教育における実現可能な能力として捉え、その教育プログラム開発に重要な意義があると考えている。

資格教育課程の基本的な枠組み

3つ領域	到達目標	開発能力	具体的な学修目標	学修プログラム
領域1 その資格に必要なキャリア・教養を含む基礎的な知識・能力と社会人基礎力の領域	到達目標1	開発能力1	具体的な学修目標	学修プログラムの内容
領域2 その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力の領域	到達目標2	開発能力2	具体的な学修目標	学修プログラムの内容
領域3 その資格全般に係る課題発見力・創造的解決力と学びの継続力(=総合的実践力)の領域	到達目標3	開発能力3	具体的な学修目標	学修プログラムの内容

- ・ 3つの領域と到達目標：3つの領域に対して、各資格教育課程が実現する到達目標を設定している。
- ・ 開発能力：到達目標を達成するために、資格教育課程で開発能力を示している。
- ・ 具体的な学修目標：学生が開発能力を修得するために、達成すべき具体的な学修目標を示している。
- ・ 学修プログラム：授業科目の学修目標を達成するための授業内容、授業方法、授業の組み立てを含むものである。

3. 資格申請業務の簡素化

資格申請時に、2018年度から一括表と称している「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」を求めている。なお、既に資格到達目標達成度評価制度を導入している大学においては、一括表に学生の「到達目標達成度評価結果」を求めてきた。この記載方法が、2023年度から一部変更となり、簡素化する。資格改革第三弾「全資格の到達目標を達成する教育課程編成と学修成果の可視化」の整備方針による一部変更である。

具体的には、A欄の大学教育として求める「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」の記載内容は従前通りであるが、B欄の学生自己評価として求める「到達目標達成度評価結果」とその「教員評価」について、その評価方法を一部変え、申請に教員評価の記載を不要とし、教員評価欄をなくして、学生の自己評価のみとした（2023年度申請から義務化）。これまでの制度では教員が評価時期や方法に悩まされるという意見が出ていたので、この変更で少し改善されると思われる。

しかし、この制度の一部変更に伴い、教職員にお願いしたいことは、資格教育課程を学修する学生に、資格授与申請にはルーブリック活用の自己評価表の記入提出が必要であることの事前説明（説明用資料有り）である。

「国際ボランティア実務士」資格ガイドライン (B 資格ごとの教育課程編成のしかた編)

◇国際ボランティア実務士の教育目標

国際ボランティアに関する基礎知識・専門知識に加え、それに必要とされる技術と国際的に通用する実務能力を養成する。

1. 「国際ボランティア実務士」の領域別資格到達目標と教育課程編成方針

(1) 本資格の「3つの領域の資格到達目標」「開発能力」「具体的な学修目標」

本資格の3つの領域ごとの「資格到達目標」ならびに、それらを達成するための「開発能力」「具体的な学修目標」を次に示す。

領域1の 資格到達目標	国際ボランティア実務全体に関する基礎知識および国際ボランティアが必要とされる国際情勢についての基本的理解と、刻々と変化する最新情報を学び続ける基本姿勢と実践学修ができる基礎能力を修得している。
----------------	--

開発能力	能力の内容	具体的な学修目標
1-1 国際ボランティアについての基礎知識	国際ボランティアを行うのに必要な基礎的知識を身につける能力	①日本および海外の市民社会、NGO・NPOについての発展の歴史、背景、現状および特徴を理解している。 ②開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における実践事例を理解している。
1-2 国際ボランティアの基礎的能力	国際ボランティア活動に関する情報を収集・分析し、それを伝えられる能力	③国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、批判的に分析し、要約する力を身につけている。 ④国際情勢や開発に関して、常に学び続け、それを適切に組織に還元し、政策に反映するために発信する力を身につけている。
1-3 国際情勢についての理解	国際情勢についての基本を理解し、最新情報を学び続ける能力	⑤グローバル課題についての基本的理解を身につけている。 ⑥ボランティアを取り巻く環境と歴史（市民意識、政策、住民運動など）について理解している。

領域 2 の 資格到達目標	国際ボランティアが必要とする幅広い実務および組織マネジメントについての理解と実践的に対応できる能力を身につけ、開発協力についてのアプローチを理解するとともに、多様な社会や他者を理解しコミュニケーションを図る力を備えている。
------------------	---

開発能力	能力の内容	具体的な学修目標
2-1 国際ボランティアの実務能力	国際ボランティアが必要とする実務と組織マネジメントを理解する能力	⑦人材管理や広報、ファンドレイジング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントを理解している。 ⑧現場における開発活動のために必要な手法（社会調査方法、プロジェクトサイクルなど）を理解している。
2-2 開発協力アプローチの実践力	国際的活動の開発協力アプローチを理解し、それを実践する能力	⑨SDGs など国際目標や国際機関の取り組み、社会開発論や市民によるグローバルキャンペーン、参加型開発など草の根からの開発アプローチを理解している。 ⑩開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて理解している。
2-3 異文化理解および外国語による他者とコミュニケーションする力	多様な社会や他者を理解し、外国語による他者とのコミュニケーションを図る能力	⑪英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション力を身につけている。 ⑫異文化を理解し、様々な他者に共感し、共同する受容力を身につけている。

領域 3 の 資格到達目標	国際ボランティアの基礎知識や実務に関する知識を活用するための関連実務経験を有し、課題発見・解決力、学びの継続力の重要性を理解している。
------------------	---

開発能力	能力の内容	具体的な学修目標
3-1 国際ボランティアの総合的実践力	国際ボランティアに関する知識や技術を総合的に活かして実践できる能力	⑬国際ボランティアの知識や技術を幅広く活用して、海外や異なる文化的背景をもった他者との交流や協働ができる。 ⑭ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインターンシップを経験する。
3-2 実践活動における学びの継続力	国際ボランティアの学修を通して学びを継続する重要性を理解する能力	⑮国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して、課題を発見し解決する能力を身につけるとともに、将来、高い専門性を有する国際ボランティアとして活動するための学びを継続することの重要性を理解している。

（２）必修科目と選択科目の設計

①必修科目

本資格の必修科目は次の３つの領域の資格到達目標を達成する重点科目をそれぞれの領域ごとに領域１は４単位、領域２は６単位、領域３は２単位、合計１２単位以上選定して設定する。

領域１ 知識と能力および国際情勢についての基本を理解する領域

領域２ 実務と組織マネジメント、開発に関する様々なアプローチについての基礎知識およびコミュニケーション力の領域

領域３ 総合的実務実践力と学修継続力の領域

国際ボランティア実務士の資格到達目標を実現するために、具体的な学修目標を視野に入れ、国際ボランティア実務士として必要な学修内容を全体的に含む科目である。必修科目を履修することで、国際ボランティア実務士教育課程の中核となる学修成果を達成することができる。

②選択科目

選択科目とは、本資格の具体的な学修目標の達成度を拡充するための科目である。３つの領域から国際ボランティア実務士の資格到達目標および具体的な学修目標の達成度を高めるように、教育課程を設計することが重要である。なお、各領域を複合させた設計も可能である。

２．資格教育課程の編成のしかた

資格改革による教育課程編成の大きな変更によって、当該大学は、協会が示す資格到達目標（開発能力で明示）を踏まえていれば、自学の人材育成にそった教育課程を編成することができるようになった。

しかし、当面は簡便法として、資格教育課程の必修科目と選択科目に関して、協会が示す３つの資格到達目標に対応する「開発能力」および「具体的な学修目標」から、自学の授業科目の教育目標にマッチするものをシラバスで確認し、５割以上選択して教育課程を編成する方法をとる。

したがって、簡便な進め方として「資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表」（※¹）を次の要領で完成させて提出することができる。

㊦申請する資格教育課程表で、３領域を確認しながら授業科目を仮設定する。

㊦各授業科目の単位数、学修目標、目標を達成するための学修プログラムを明記する。

㊦授業科目ごとにＡ欄から開発能力を選択し、明記する。

㊦選択した開発能力に対応する具体的な学修目標から達成できるものをＢ欄で確認し、選択して明記する。

㊦資格の到達目標を達成するための重点科目を領域ごとに選択し、資格教育課程の必

修科目として●をつけ、その他の科目を選択科目として○をつけておく。

ここで資格教育課程全体を俯瞰し、不備に気づいた場合は修正して授業科目を確定する。

㉗必修・選択科目の単位数が要件を満たしているか確認し、必修単位数と総単位数の合計を明記する。

(※¹)「資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表」は、記入例の資料参照のこと。

3. 資格到達目標・具体的な学修目標と教育課程編成の例示

(1) 授業科目の例「国際ボランティア論」

授業科目の学修目標 地球規模課題が深刻化する中で存在意義が高まってきた国際ボランティアの社会的意義と役割についての基礎知識を修得する。

開発能力：1-1 国際ボランティアについての基礎知識

1-3 国際情勢についての理解

対応する資格の具体的な学修目標

②開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における実践事例を理解している。

⑥ボランティアを取り巻く環境と歴史（市民意識、政策、住民運動など）について理解している。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・国際ボランティアの社会的意義 ・国際ボランティアの役割 ・国際ボランティアの実践事例 ・ボランティアを取り巻く環境と歴史	国際情勢の変化と結びつけながら、多様な活動事例から実践的な知識を身につけるプログラム

(2) 授業科目の例「国際ボランティア組織論」

授業科目の学修目標 ボランティア活動の特徴を踏まえた組織マネジメントと主体的市民を活かした社会のあり方についての基本的考え方を修得する。

開発能力：2-1 国際ボランティアの実務能力

対応する資格の具体的な学修目標

⑦人材管理や広報、ファンドレイジング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントを理解している。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・人材管理や広報 ・ファンドレイジング ・国際ボランティアに関連する施策や法制度 ・ボランティア組織のマネジメントに関する基本	基礎的な組織論とマネジメントの講義に加え、具体的な課題事例をつかったグループ分析など演習を行うプログラム

（３）授業科目の例「フィールドスタディ」

授業科目の学修目標 現場を訪れて自分の足と目、心を使って実際に体験することで、机上の知識だけでは学び取ることはできない人間的理解を得る。

開発能力：3-1 国際ボランティアの総合的実践力

対応する資格の具体的な学修目標

- ⑬国際ボランティアの知識や技術を幅広く活用して、海外や異なる文化的背景をもった他者との交流や協働ができる。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・現地の事情やマナー ・異なる文化的背景をもった他者との交流 ・現場での体験を通じた人間的理解の修得	事前に予備知識やマナーを身につけて現地を訪れ、そこに生きる人々と直にふれあうプログラム

国際ボランティア実務士の資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表

記入事例

※下記の該当箇所の□に○を付してください。

◇本資格の教育目標			大学名		申請する教育課程の実施予定年度	
国際ボランティアに関する基礎知識・専門知識に加え、それに必要とされる技術と国際的に通用する実務能力を養成する。			資格教育課程責任者 所属・役職名・氏名		使用する到達目標達成度評価表の種類	
			連絡責任者 所属・役職名・氏名		協会の定める到達目標達成度評価表（協会標準型） 大学独自の評価方法（大学独自型）	

本資格の到達目標・開発能力・具体的な学修目標一覧

到達目標	開発能力 (A)	具体的な学修目標 (B)
領域 1	1-1 国際ボランティアについての基礎知識	①日本および海外の市民社会、NGO・NPO についての発展の歴史、背景、現状および特徴を理解している。
	1-2 国際ボランティアの基礎的な能力	②開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における実践事例を理解している。
	1-3 国際ボランティアの新しい理解	③国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、批判的に分析し、要約する力を身につけている。
		④国際情勢や政策に関して、常に学び続け、それを適切に組織に還元し、政策に反映するために発信する力を身につけている。
		⑤グローバル課題についての基本的理解を身につけている。
		⑥ボランティアを取り巻く環境と歴史（市民意識、政策、住民運動など）について理解している。
領域 2	2-1 国際ボランティアの実務能力	⑦人材管理や広報、ファンドレイジング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントを理解している。
		⑧現場における開発活動のために必要な手法（社会調査方法、プロジェクトサイクルなど）を理解している。
	2-2 開発協力の実践能力	⑨SDGs など国際目標や国際機関の取り組み、社会開発論や市民によるグローバルキャンペーン、参加型開発など章の根からの開発アプローチを理解している。
		⑩開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて理解している。
領域 3	2-3 異文化理解および外国語によるコミュニケーション能力	⑪英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション力を身につけている。
		⑫異文化を理解し、様々な他者に共感し、共同する受容力を身につけている。
	3-1 国際ボランティアの総合的な実践能力	⑬国際ボランティアの知識や技術を幅広く活用して、海外や異なる文化的背景をもった他者との交流や協働ができる。
領域 3	3-2 実践的な能力	⑭ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインタベンションを経験する。
		⑮国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して、課題を発見し解決する能力を身につけるとともに、将来、高い専門性を有する国際ボランティアとして活動するための学びを継続することの重要性を理解している。

申請する教育課程

授業科目名	資格必修選択	開発能力 (A) から選択	学修目標 (B) から選択	単位数	申請する授業科目の学修目標	学修目標を達成するための学修プログラム
領域 1	●	1-1	②	2	地球規模課題が深刻化する中で存在意義が高まってきた国際ボランティアの社会的意義と役割についての基礎知識を修得する。	国際情勢の変化と結びつけながら、多様な活動事例から実践的な知識を身につけるプログラム
	○	1-1	①	2	国内外の様々な NGO・NPO の活動事例を通して、NGO・NPO の社会的意義と役割、歴史について基本的考え方や知識を修得する。	NGO・NPO が取り組む課題と具体的な活動内容の紹介を中心とした講義、外部講師を積極的に活用するプログラム
	○	1-2	③	2	情報化社会の様々な場面において必須となっている、コンピュータおよびインターネットの活用に関する基本的な能力を身につける。	情報セキュリティの重要性を学ぶプログラム
	○	1-2	④	2	自ら他者に働きかけ（話す）、伝えたい相手のニーズを聴き（聞く）、伝えたい事を伝えられる（伝える）総合的な能力を身につける。	1対1から1対多数のコミュニケーションを学ぶプログラム
	●	1-3	⑤	2	地球規模課題を構造的暴力、文化的暴力の観点から捉える、自分の暮らしのつながりの中で何が出来るか主体的に課題を考察する。	地球規模課題と私たちの暮らしのつながりを論理的、倫理的に説明し、多様な主体の活動を批評するプログラム
	○	1-3	⑤	2	紛争と女性、少年兵、拷問など具体的な事例から国際人権の概念と現状を理解し、課題解決に必要な知識と論理力を身につける。	国際人権に対する基本的な視点、国際人権問題の歴史と現状を概説し、問題の特徴を説明するプログラム
	○	2-2	⑩	2	近代における国際関係に対する基本的理解を深めると同時に、戦争に象徴される暴力と平和の問題を考察することを目的とする。	基本的な国際関係の歴史について概説し、国際関係を理解するためのトランスナショナルな視点を養うプログラム
	○	1-3	⑤	2	国際経済学の基礎を体系的に学習することを目指す。	国際貿易システムの形成と発展、ブレント・ワッツ体制、金融のグローバル化などについて概説するプログラム
	○	2-1	⑦	2	ボランティア活動の特徴を踏まえた組織マネジメントと主体的市民を活動した社会のあり方についての基本的考え方を修得する。	基礎的な組織論とマネジメントの知識に加え、具体的な課題事例をつかったグループ分析などの演習を行うプログラム
	○	2-1	⑧	2	援助の前に必要となる社会調査方法や現場で活動を行う上で扱うべき注意点など方法論の基礎を身につける。	質的調査、計量調査の概説と演習を行い、調査倫理を前提とした社会的課題解決の技法を説明するプログラム
領域 2	●	2-2	⑨⑩	2	社会開発理論についての講義と具体的な活動事例の理解を通して、社会開発の意義と可能性について考察ができるようになる。	社会開発理論の議論、セクター別社会開発事例の紹介、市民参加の方法と課題について紹介するプログラム
	○	2-2	⑨⑩	2	開発協力・国際援助の歴史と開発理論の基礎を学び、開発効果と外交上の観点から政策分析する力を修得する。	開発理論と援助実践の歴史と理論についての講義と ODA の実践事例の批判的検討など演習を行うプログラム
	●	2-3	⑪	2	英語の4技能（読む・書く・話す・聞く）を、基礎の部分を確認しつつ自分のことを英語で表現できるようにする。	資格試験（TOEIC、IELTS など）に関わるテキスト、新聞記事、Youtube 等の教材にしたタイ語会話の練習を行う。講義と演習を交互に行うプログラム
	○	2-3	⑪	2	基本文法とセンテンスパターンを修得する。終了時には、初歩的な日常会話ができるようになる。	日常的なヒックスの教材にしたタイ語会話の練習を行う。講義と演習を交互に行うプログラム
	○	2-3	⑫	2	人間と文化について根本から考える基礎的概念とツールを修得し、異文化を理解する知識と知見を修得する。	多様な文化、生活様式、価値観を理解し、分析する人類学の理論とフィールドワーク方法を紹介するプログラム
	○	2-3	⑫	2	世界で起こっている様々な子どもたちの問題について文化、歴史や紛争といった構造との関連で客観的に理解する力を身につける。	世界で特に子どもが直面する諸問題と、その背景にある国際システムとグローバル化の動きの理解を行うプログラム
領域 3	●	3-1	⑬	2	現場を訪れて自分の足と目・心を使って実際に体験することで、机上の知識だけでは与えられない人間性や文化の理解を深め、地	事前に予備知識やマナーを身につけて現場を訪れ、そこに生きる人々と直面しあふプログラム
	○	3-1	⑭	2	ボランティアやNPO、様々な社会貢献活動についての理解を深め、地域社会の一員として社会に関わる意味を実践的に学ぶ。	コミュニティ・サービス（地域でのボランティア活動）に参加し、その体験を振り返るから学ぶプログラム

必修修得単位数	領域 1	(4) 単位	領域 2	(6) 単位	領域 3	(2) 単位	総修得単位数	(36) 単位
---------	------	--------	------	--------	------	--------	--------	---------

記入の方法

- ・授業科目ごとに、開発能力を (A) 欄から選択し、開発能力に対応する具体的な学修目標から達成できるものを (B) 欄から選択する。それぞれの番号を教育課程の所定の欄に明記する。
- ・資格必修・選択の欄は、資格の到達目標を達成するための重点科目を領域ごとに選択し、資格教育課程の必修科目として●を明記し、その他の科目を選択科目として○を明記する。なお、必修科目を、選択必修科目とする場合には▲を明記する。

資格のガイドライン ([C] 資格到達目標達成度評価制度の運用編)

1. 資格到達目標達成度評価制度とは

現在、高等教育機関における学修成果の質保証が求められている。同様に、本協会に対しても、資格の質保証、社会的通用性の保証が求められている。この動きが加速することを予想して、本協会は全ての資格の改革に 2013 年から計画的に取り組んできた。まず資格到達目標の設定、それを達成する資格教育課程の再編を進めてきた。また同時に、ルーブリックを活用する資格教育課程全体の学修成果を確認する方法として、「到達目標達成度評価表」(協会標準型)を提案し、学生の自己評価を加える資格の質保証を推進してきた。

この資格到達目標に基づく教育課程の学修成果の評価として、大学の単位認定による評価に加えて学生自己評価を実施し、実務学修の継続力向上へとつなぐこととする。なお、これら一連の評価制度を「資格到達目標達成度評価制度」と称する。

2. 学修の質保証の方法

資格教育課程の質保証には、資格改革において量的データと質的データで総合的に評価することが必要である。本協会では、量的データとしては、大学および短期大学の成績評価をこれにあててきたが、質的データは、ルーブリック(※¹)を活用する到達目標達成度評価表を導入して、資格教育課程全体の学修成果を学生自らが確認できるようにした。この実質化の取り組みを重ねることで、質保証が実現できると考えている。

さて、本協会の資格到達目標達成度評価制度の実現レベルは、資格到達目標を実現化する教育課程編成が整備され、次の「学生自己評価の導入」については、具体には協会が提示する到達目標達成度評価表(協会標準型※²)または当該大学が独自に開発した評価表(大学独自型※³)を活用して行うものとしての取り組みを進めており、実施可能なレベルになっている。つまり評価制度が外形的に整備されてきた段階にあると認識している。

資格改革開始からちょうど 10 年になる 2023 年度から、資格授与申請に際し一括表(※⁴)に資格教育課程の単位認定結果(A)と併せて到達目標達成度評価表の受理(B)に記載の上提出を求めることになる。

そこで、従前に本協会が提案していた学生の自己評価に対する教員評価による確認は省くこととし、当該大学は学生自己評価用の「到達目標達成度評価表(提出用)」を提出することになる。

既に独自の学生自己評価を実施している大学には、同様の一括表による申請により、これまで通りの資格認定証(※⁵)で対応する、また一方で、改組などの個別事情から導入がしばらく遅れる場合には、それに見合った資格認定証で対応することにする。

以上によって、資格を学修する学生の学修成果を担保するとともに、今後も資格の社会的通用性を高めることを会員校と共に目指していきたい。

(※¹) ルーブリック (rubric) とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学修するのかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。(中教審大学教育部会 2011 年 12 月 9 日説明資料より)

(※²) 本協会が提示する「到達目標達成度評価表(提出用)」(協会標準型)は、C.ガイドラインの資料「資格教育課程履修の学生配布資料」に添付している。

この到達目標達成度制度評価表(提出用)の活用法について、ステップ1は「ルーブリックによる教育課程の到達目標達成度評価表」を活用して、開発能力ごとの自己評価を実施する。ステップ2はステップ1のルーブリックによる自己評価結果を、到達目標達成度評価表(提出用)に転記する。ステップ3は転記結果をもとに、到達目標達成度評価表(提出用)で、領域1、領域2、領域3の到達目標達成度の自己評価結果のまとめをする。最後に、資格学修プロセス全体を振り返って、その内容を「全体振り返りと学修課題」の欄に記入することで、「到達目標達成度評価表(提出用)」の記載は終了する。この一連の自己評価学修によって、各学生の学修継続力向上が期待できると考えている。時間をかけて、学生が自己評価能力を養い、自らの能力開発のための学修課題を形成する力を養うことを真の目的としているので、自己評価結果の数値レベルだけによって資格授与認定が左右されないことを理解しておくことである。

(※³) 当該大学が独自に開発した評価表(大学独自型)について、到達目標の学修成果を学生が確認しやすいものであれば、ルーブリック形式およびそれ以外の評価表も可としている。大事な点は自己評価結果の数値化にとどまらず、時間をかけて今後の自分の開発能力と学修課題を形成する力を養うことの気づきである。

(※⁴) 一括表とは、C ガイドラインに「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書」として添付する提出用の資料である。

(※⁵) 資格認定証は、C ガイドラインに「資格認定証」として図示するものである。

3. 「資格到達目標達成度評価制度」の運用

「資格到達目標達成度評価制度」は、当該大学の単位認定による評価に、ルーブリックを活用する資格教育課程の学生自己評価が加わる(※⁶)、一連の評価制度である。そこで学生、大学教職員、協会担当者が趣旨を理解し、共に連携することによって、資格到達目標達成度評価制度の効率のよい運用が確立していくと期待している。

(※⁶) 学生自己評価の運用については、C ガイドラインに「資格教育課程履修の学生配布用資料」として添付する。

次に運用の基本ポイントをステップ順に掲げておく。

＜ステップ1＞ 資格到達目標達成度評価制度実施の事前準備

- ・認可済の資格到達目標を達成する「教育課程編成表」の確認をする。
- ・資格授与認定について、資格認定の申請年度からさかのぼって単位認定を行いたい場合は、従前から認めているので、学生に明示して運用する。
- ・学生自己評価のための「ループリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表」と「到達目標達成度評価表（提出用）」の整備をする。なお、協会標準型以外の大学独自型のものの使用を可とする。ただし協会へ評価表を提出する。
- ・教職員による資格履修学生へのガイダンスを行う。（資格教育課程編成表の提示・到達目標達成度評価表の配布・到達目標達成度評価表の提出スケジュール確認）

＜ステップ2＞ 履修確認と事前提出

- ・「（見込）資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」を協会へ提出する。
- ・学生へ「到達目標達成度評価表（提出用）」による自己評価実施と提出締切り日を通知する。（到達目標達成度評価表の再配布可）

＜ステップ3＞ 「大学単位修得と評価表」の提出

- ・「（確定）資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」を協会へ提出する。（一括表(A)(B)欄記入済）
- ・「到達目標達成度評価表（提出用）」を協会へ提出する。

＜ステップ4＞ 資格の認定

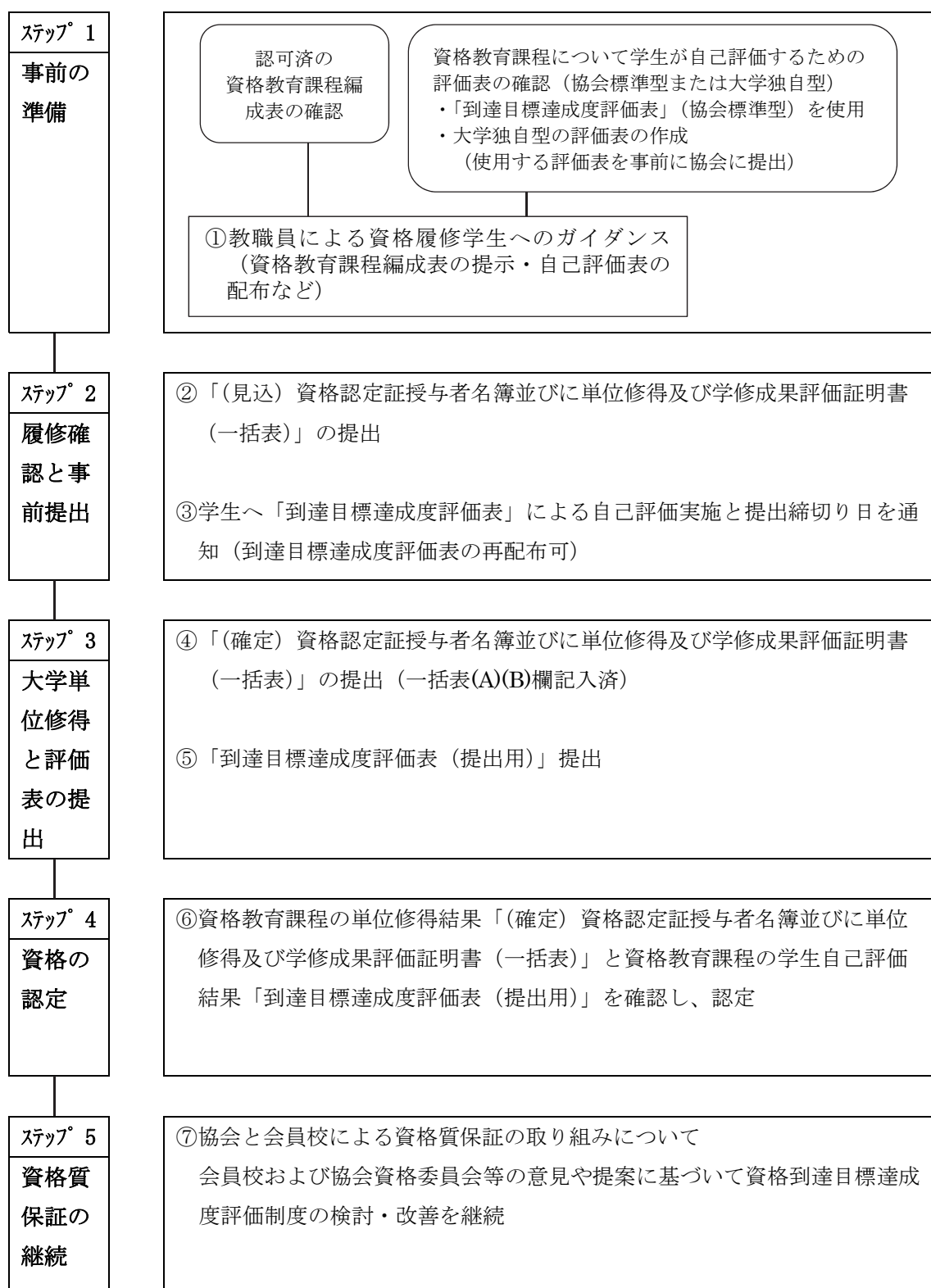
- ・「（確定）資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」と「到達目標達成度評価表（提出用）」を確認し、認定する。

＜ステップ5＞ 資格質保証の継続

- ・会員校間や協会資格関係委員会から出される意見・提案をまとめ、資格到達目標達成度評価制度の運用検討や改善を行い、会員校へ提案を継続する。

「資格到達目標達成度評価制度」運用について、流れ図として次に示す。

「資格到達目標達成度評価制度」運用の流れ図



大学名

(見込) or (確定) 「国際ボランティア実務士」 資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書 (一括表)

※授業科目名については記載不要です
※ (A) と (B) は必ず記載して下さい

資格到達目標達成度評価制度を
□導入している

(A) 大学の教育評価の欄														
No.	当初申請年度	氏名	フリガナ	生年月日 (西暦)			領域別必修科目の 単位数			必修科目 総単位数 ①	選択科目 総単位数 ②	総修得 単位数 (①+ ②)		
							領域 1	領域 2	領域 3					
1										0		0		
2										0		0		
3										0		0		
4										0		0		
5										0		0		
6										0		0		
7										0		0		
8										0		0		
9										0		0		
10										0		0		
11										0		0		
12										0		0		
13										0		0		
14										0		0		
15										0		0		

(注1) 漢字表記は原則「J I S 第1、第2水準」です。

(注2) 大学名・氏名は間違えないよう、記入ください。

(注3) 資格ごとにシートを分けて、1つのExcelファイルにしてください。

※本一括表に記載された一切の個人情報 は本協会が厳正に管理し、資格認定証授与にのみ使用します。

見本

V K 0 0 0 0 0 1 号



裏面

「国際ボランティア実務士」の 到達目標達成度評価

- 資格到達目標 1 〈国際ボランティア実務全体に関する基礎知識および国際ボランティアが必要とされる国際情勢についての基本的理解と、刻々と変化する最新情報を学び続ける基本姿勢と実践学習ができる基礎能力を修得している〉

〈開発能力〉

- ・国際ボランティアを行うのに必要な基礎的知識を身につける能力
- ・国際ボランティア活動に関する情報を収集・分析し、それを伝えられる能力
- ・国際情勢についての基本を理解し、最新情報を学び続ける能力

- 資格到達目標 2 〈国際ボランティアが必要とする幅広い実務および組織マネジメントについての理解と実践的に対応できる能力を身につけ、開発協力についてのアプローチを理解するとともに、多様な社会や他者を理解しコミュニケーションを図る力を備えている〉

〈開発能力〉

- ・国際ボランティアが必要とする実務と組織マネジメントを理解する能力
- ・国際的活動の開発協力アプローチを理解し、それを実践する能力
- ・多様な社会や他者を理解し、外国語による他者とのコミュニケーションを図る能力

- 資格到達目標 3 〈国際ボランティアの基礎知識や実務に関する知識を活用するための関連実務経験を有し、課題発見・解決力、学びの継続力の重要性を理解している〉

〈開発能力〉

- ・国際ボランティアに関する知識や技術を総合的に活かして実践できる能力
- ・国際ボランティアの学習を通して学びを継続する重要性を理解する能力

上記の資格到達目標を全て達成したことを証明する。

〇〇〇〇大学 学長

一般財団法人全国大学実務教育協会 会長

国際ボランティア実務士認定証

CERTIFIED INTERNATIONAL VOLUNTEER MANAGEMENT SPECIALIST

山 田 太 郎

20△△年1月1日生

あなたは〇〇〇大学において
本協会が認定した国際ボランティア実務士の教育課程を履修し
資格到達目標を達成されましたので本協会定款第6条により
国際ボランティア実務士の資格を授与いたします

20△△年3月31日

一般財団法人全国大学実務教育協会

会 長 森 脇 道 子



東京都千代田区九段南四丁目2番12号

資格教育課程履修の
学生みなさんへ

「到達目標達成度評価表」の提出要領

1. 「到達目標達成度評価表」の提出について

本資格の授与認定の条件として、大学から本協会に対して「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」と「到達目標達成度評価表（※¹）（提出用）」の提出が必要です。この到達目標達成度評価表の提出を円滑に行うために、履修のスタートと履修終了の時期に、この資料に目を通して対応してください。

（※¹）以下に示す「到達目標達成度評価表」は協作成のものであるが、大学独自に作成する評価表も可としているので、それを使用する場合は各大学の説明に従ってください。

（1）ループリック（※²）を活用する「到達目標達成度評価表」とは

到達目標達成度評価表は、協会資格教育課程の受講結果を、資格の到達目標達成度によって総合的に自己評価するためのものです。この到達目標達成度評価表の活用によって、個別の到達目標（開発能力）をどれだけ達成できたのかを確認し、次にこの資格到達目標の総合的達成度を表示し、最後に達成度をさらに高めるためにはどのような課題があるのかを見つけ、これを今後の自己学修の目標とする。この一連の自己評価学修を可能にする評価表です。

（※²）ループリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学修するかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標のことです。（中教審大学教育部会 2011 年 12 月 9 日 説明資料より）

（2）ループリックを活用する「到達目標達成度評価表」による自己評価とは

自己評価は、到達目標達成度評価表を活用して行います。その際、自己評価結果の数値（レベル5～レベル1）によって、資格授与認定が左右されることはありません。その理由は、自己評価が時間をかけて自らの能力開発のための学修課題を発見し、自己学修に継続して取り組み、この自己評価能力を養うことを真の目的にしているからです。到達目標達成度評価表の活用による一連の自己評価活動が徐々に自己評価能力を高め、その後の学修継続力となっていくと意識して自己評価に取り組み、その結果をありのまま記述してください。

2. 到達目標達成度評価表の記入方法

（1）学修成果の総合評価のしかた

- ①「到達目標達成度評価表（提出用）」について、領域別到達目標、開発能力、具体的な学修目標の内容確認、および学生自己評価（項目別レベル・領域別レベル）の記入欄の確認をする。
- ②具体的な進め方のステップ1は、「ループリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表」を使用する場合は、自分が到達している学修成果レベルを、レベル5～レベ

ル1で自己評価する。なお、開発能力に該当する授業科目や学修プログラムを履修していない場合は空欄にする。

- ③ステップ2は、ステップ1で行った自己評価結果を「到達目標達成度評価表（提出用）」の該当欄に転記する。その際も、開発能力の項目を全て満たしていなくてもよいので、該当する項目を確認して転記する。
- ④最後のステップ3は、転記結果をもとに、領域1～領域3の到達目標ごとの自己評価達成度をまとめ、総合評価欄の該当レベルに○を記入する。その際、開発能力の評価レベルの平均を出して記載するのではなく、あくまで領域別の到達目標をじっくり確認し、総合的な達成度レベルを決めて記載すること。

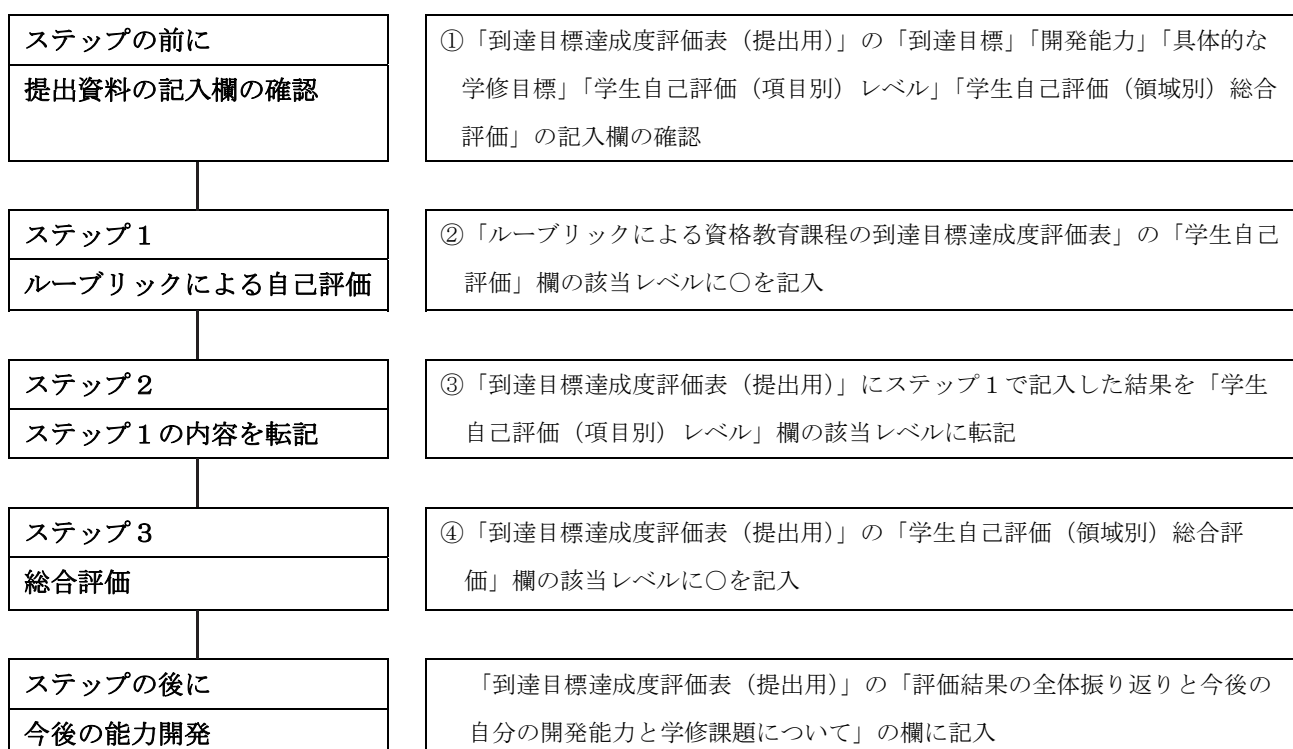
（２）今後の能力開発

- ①学修成果の自己評価プロセス全体を振り返ってその内容を「到達目標達成度評価表（提出用）」の「評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について」の欄に記入する。
- ②「到達目標達成度評価表（提出用）」の記入が終了したら、控をとって（義務化ではない）、大学の所定の提出先に締め切り日までに提出すること。大学がこの「到達目標達成度評価表（提出用）」の受理の確認の記載を含めた「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」と「到達目標達成度評価表（提出用）」を併せて本協会へ提出をし、最終資格認定を行う。

添付資料 A ルーブリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表

添付資料 B 到達目標達成度評価表（提出用）

到達目標達成度評価表（提出用）の記入方法の流れ図



「ルーブリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表」
【国際ボランティア実務士】教育課程 到達目標達成度評価表

領域 1

資格 到達 目標	開発能力	具体的な学修目標	レベル 5 (90 点以上)	レベル 4 (80～89 点)	レベル 3 (70～79 点)	レベル 2 (60～69 点)	学生自己 評価
国際ボランティア実務士 全体に関する基礎知識および国際ボランティアが 必要とされる国際情勢についての基本的理解と、 刻々と変化する最新情報を学び続ける基本姿勢と実践修得 ができる基礎能力を修得している。	1-1 国際ボランティア について の基礎知識	①日本および海外の市民社会、NGO・NPO についての発展の歴史、背景、現状および特徴を理解している。	・日本および海外の市民社会や NGO・NPO に関する歴史、背景、現状、特徴についての基礎的な事項を具体的な事例をもとに説明し、今後の市民社会と NGO や NPO のあり方を指摘できる。	・日本および海外の市民社会や NGO・NPO に関する歴史、背景、現状、特徴についての基礎的な事項を具体的な事例をもとに説明できる。	・日本および海外の市民社会や NGO・NPO に関する歴史、背景、現状、特徴についての基礎的な事項を説明できる。	・教科書などを使って、日本および海外の市民社会や NGO・NPO に関する歴史、背景、現状、特徴についての基礎的な事項を説明できる。	5・4・3・2・1
	1-2 国際ボランティア の基礎的な能力	②開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における実践事例について、国際ボランティアの役割を明確にし、課題解決のあるべき姿を説明できる。	・開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における実践事例について、国際ボランティアの役割を明確にして説明できる。	・開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における事例について、国際ボランティアの基礎的な事項をもとに説明できる。	・開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における事例について、国際ボランティアの基礎的な事項をもとに説明できる。	・教科書などを使って、開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における事例について、国際ボランティアの基礎的な事項をもとに説明できる。	5・4・3・2・1
		③国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、批判的に分析し、課題解決に向けた現実的なレポートにまとめることができる。	・国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、批判的に分析し、課題解決に向けた現実的なレポートにまとめることができる。	・国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、批判的に分析し、基礎的なレポートにまとめることができる。	・国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、基礎的なレポートにまとめることができる。	・教員の指導のもとで、国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集・分析し、基本的なレポートにまとめることができる。	5・4・3・2・1
1-3 国際情勢 について の理解	国際情勢 について の理解	④国際情勢や開発に関して、常に学び続け、それを適切に組織に還元し、政策に反映するために発信する力を身につけている。	・国際情勢や開発に関して学び続け、組織としての政策提言に貢献することができ、実践的なレポートにまとめ、その成果と課題を振り返ることができる。	・国際情勢や開発に関して学び続け、組織としての政策提言に貢献することができ、実践的なレポートにまとめることができる。	・国際情勢や開発に関して学び続け、組織としての政策提言に貢献することができ、基礎的なレポートにまとめることができる。	・教員の指導のもとで、国際情勢や開発に関して学び続け、組織としての政策提言に貢献することができ、基礎的なレポートにまとめることができる。	5・4・3・2・1
		⑤グローバル課題についての基本的理解を身につけている。	・国境を越えた地球規模の課題について、具体的な事例をもとに基礎的な事項を説明し、多様なアクターや課題間の関連性を考察することができる。	・国境を越えた地球規模の課題について、具体的な事例をもとに基礎的な事項を説明できる。	・国境を越えた地球規模の課題について、基礎的な事項を説明できる。	・教科書などを使って、国境を越えた地球規模の課題について、基礎的な事項を説明できる。	5・4・3・2・1
1-3 国際情勢 について の理解	国際情勢 について の理解	⑥ボランティアを取り巻く環境と歴史（市民意識、政策、住民運動など）について理解している。	・ボランティアを取り巻く環境と歴史について、具体的な事例をもとに基礎的な事項を説明し、クライアントの立場に立つて今後の課題を考察することができる。	・ボランティアを取り巻く環境と歴史について、具体的な事例をもとに基礎的な事項を説明できる。	・ボランティアを取り巻く環境と歴史について、基礎的な事項を説明できる。	・教科書などを使って、ボランティアを取り巻く環境と歴史について、基礎的な事項を説明できる。	5・4・3・2・1

領域2

資格 到達 目標	開発能力	具体的な学修目標	レベル5（90点以上）	レベル4（80～89点）	レベル3（70～79点）	レベル2（60～69点）	学生自己 評価
国際ボランティアの実務能力	2-1	⑦人材管理や広報、ファンディング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントを理解している。	・人材管理や広報、ファンディング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントについて、具体的な実践事例をもとに国際ボランティア活動の観点から基礎的な事項について批判力をもつて説明できる。	・人材管理や広報、ファンディング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントについて、具体的な実践事例をもとに批判力をもつて説明できる。	・現場における開発活動のために必要な手法の基礎的な活用方法を説明できる。	・教科書などを使って、人材管理や広報、ファンディング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントについて、基礎的な事項を説明できる。	5・4・3・2・1
		⑧現場における開発活動のために必要に必要手法（社会調査方法、プロジェクトサイクルなど）を理解している。	・現場における開発活動のために必要な手法の実践的な活用方法を、 <u>国際ボランティア活動に課題解決に向けて活用</u> できる。	・現場における開発活動のために必要な手法の基礎的な活用方法を課題解決に向けて活用できる。	・現場における開発活動のために必要な手法の基礎的な活用方法を説明できる。	・教科書などを使って、現場における開発活動のために必要な手法の基礎的な活用方法を説明できる。	
開発協力者の実践能力	2-2	⑨SDGsなど国際目標や国際機関の取り組み、社会開発論や市民によるグローバルキヤンペーン、参加型開発など草の根からの開発アプローチを理解している。	・持続的な開発目標を達成するための国際的な取り組み、国レベルの社会開発や市民活動、草の根開発アプローチについて、具体的な実践事例をもとに国際ボランティア活動の観点から基礎的な事項について批判力をもつて説明できる。	・持続的な開発目標を達成するための国際的な取り組み、国レベルの社会開発や市民活動、草の根開発アプローチについて、具体的な実践事例をもとに基礎的な事項について批判力をもつて説明できる。	・持続的な開発目標を達成するための国際的な取り組み、国レベルの社会開発や市民活動、草の根開発アプローチについて、 <u>基礎的な事項を説明</u> できる。	・教科書などを使って、持続的な開発目標を達成するための国際的な取り組み、国レベルの社会開発や市民活動、草の根開発アプローチについて、基礎的な事項を説明できる。	5・4・3・2・1
		⑩開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて理解している。	・開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて、具体的な実践事例をもとに国際ボランティア活動の観点から基礎的な事項を説明できる。	・開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて、 <u>具体的な実践事例をもとに基礎的な事項を説明</u> できる。	・開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて、 <u>基礎的な事項を説明</u> できる。	・教科書などを使って、開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて、基礎的な事項を説明できる。	
異文化理解および外国語による他者とのコミュニケーション能力	2-3	⑪英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション力を身につけている。	・英語をはじめとする外国語による実践的な語学力を活用して円滑な意思疎通ができる。	・英語をはじめとする外国語による実践的な語学力を活用できる。	・英語をはじめとする外国語による <u>基礎的な語学力</u> を活用できる。	・教員の指導のもとで、英語をはじめとする外国語による基礎的な語学力を活用できる。	5・4・3・2・1
		⑫異文化を理解し、様々な他者に共感し、共同する受容力を身につけている。	・異文化を理解し他者に共感し、共同する受容力をもつて、 <u>国際ボランティア活動</u> することができる。	・異文化を理解し他者に共感し、共同する受容力をもつて活動することができる。	・異文化を理解し他者に共感し共同する受容力をもつて活動する必要性に気づくことができる。	・教員の指導のもとで、異文化を理解し他者に共感し共同する受容力をもつて活動する必要性に気づくことができる。	

領域3

資格 到達 目標	開発能力	具体的な学修目標	レベル 5 (90 点以上)	レベル 4 (80～89 点)	レベル 3 (70～79 点)	レベル 2 (60～69 点)	学生自己 評価
国際 有識 者 の 知 識・ 技 術 を 活 用 し て、 海 外 や 異 な る 文 化 的 背 景 を も つ た 他 者 と の 交 流 や 協 働 が で き る。 ⑬国際ボランティアの知識・技術を活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働における課題を踏まえて実践的な活動ができる。 その成果と課題を考察できる。	3-1 国際ボラ ンティア の総合的 実践力	⑬国際ボランティアの知識や技術を幅広く活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働ができる。	・国際ボランティアの知識・技術を活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働における課題を踏まえて実践的な活動ができる。 その成果と課題を考察できる。	・国際ボランティアの知識・技術を活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働の基礎的な活動ができる。	・国際ボランティアの知識・技術を活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働の基礎的な活動ができる。	・教員の指導のもとで、国際ボランティアの知識・技術を活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働の基礎的な活動ができる。	5・4・3・2・1
	3-2 実践活動 における 学びの継 続力	⑭ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインタ ー ン シ ッ プ を 経 験 す る。 ⑮国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して、課題を発見し解決する能力を身に付けるとともに、将来、高い専門性を有する国際ボランティアとして活動するための学びを継続することの重要性を理解している。	・ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインタ ー ン シ ッ プ に 主 体 的 に 参 加 し、その成果と課題を多様な観点から考察できる。	・ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインタ ー ン シ ッ プ に 主 体 的 に 参 加 し、その結果を考察できる。	・ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインタ ー ン シ ッ プ に 参 加 できる。	・教員の指導や周りの人の支援のもとで、ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインタ ー ン シ ッ プ に 参 加 できる。	5・4・3・2・1
国際 有識 者 の 知 識・ 技 術 を 活 用 し て、 海 外 や 異 な る 文 化 的 背 景 を も つ た 他 者 と の 交 流 や 協 働 が で き る。 ⑬国際ボランティアの知識・技術を活用して、海外や異なる文化的背景をもつた他者との交流や協働における課題を踏まえて実践的な活動ができる。 その成果と課題を考察できる。	3-2 実践活動 における 学びの継 続力	⑮国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して、課題を発見し解決する能力を身に付けるとともに、将来、高い専門性を有する国際ボランティアとして活動するための学びを継続することの重要性を理解している。	・国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して実践的な課題を発見し解決することができ、国際ボランティア活動のための学びを継続するための自分の課題を明確にし、今後の学びの計画を明確にすることができる。	・国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して実践的な課題を発見し解決することができ、国際ボランティア活動のための学びを継続するための自分の課題を明確にすることができる。	・国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して基礎的な課題を発見することができ、国際ボランティア活動のための学びを継続する必要がある。要性に気づくことができる。	・教員の指導のもとで、国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して基礎的な課題を発見し解決することができ、国際ボランティア活動のための学びを継続する必要がある。要性に気づくことができる。	5・4・3・2・1

◇評価記入上の注意

- ※¹ 各レベルに付記する数はあくまで大学教育評価に対応する目安。
- ※² レベル 1 の記載はないが、レベル 2 に達しないものをレベル 1 とみなして評価する。
- ※³ 「開発能力」「具体的な学修目標」の達成度自己評価を行う際、そのすべてに対応する授業科目（学修プログラム）があり、また履修しているとは限らないので、具体的な学修目標を整理して該当するものについてのみ自己評価し、該当しないものは、自己評価をせずに空欄のままにする。
- ※⁴ 領域別総合評価は、その領域の開発能力の学修目標達成度の自己評価の記載結果を確認し、それをもとにその領域の学修目標達成度について総合的に評価する。（総合評価の記載は「到達目標達成度評価表（提出用）」に記す）

【国際ボランティア実務士】教育課程 到達目標達成度評価表（提出用）

資格到達目標	開発能力	具体的な学修目標	学生自己評価 (項目別)レベル	学生自己評価 (領域別)総合評価
領域1 国際ボランティアの基礎知識 国際ボランティアの基礎知識 国際ボランティアの基礎知識 国際ボランティアの基礎知識 国際ボランティアの基礎知識 国際ボランティアの基礎知識	1-1 国際ボランティアの基礎知識	①日本および海外の市民社会、NGO・NPO についての発展の歴史、背景、現状および特徴を理解している。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		②開発、人道支援、人権、環境、平和構築など多様な分野における実践事例を理解している。	5・4・3・2・1	
	1-2 国際ボランティアの基礎的能力	③国際ボランティア活動に関連した情報を的確に収集し、批判的に分析し、要約する力を身につけている。	5・4・3・2・1	
		④国際情勢や開発に関して、常に学び続け、それを適切に組織に還元し、政策に反映するために発信する力を身につけている。	5・4・3・2・1	
	1-3 国際情勢についての理解	⑤グローバル課題についての基本的理解を身につけている。	5・4・3・2・1	
		⑥ボランティアを取り巻く環境と歴史(市民意識、政策、住民運動など)について理解している。	5・4・3・2・1	
領域2 国際ボランティアの実務能力 国際ボランティアの実務能力 国際ボランティアの実務能力 国際ボランティアの実務能力 国際ボランティアの実務能力 国際ボランティアの実務能力	2-1 国際ボランティアの実務能力	⑦人材管理や広報、ファンドレイジング、関連政策や法制度などボランティア組織のマネジメントを理解している。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		⑧現場における開発活動のために必要な手法(社会調査方法、プロジェクトサイクルなど)を理解している。	5・4・3・2・1	
	2-2 開発協力アプローチの実践力	⑨SDGs など国際目標や国際機関の取り組み、社会開発論や市民によるグローバルキャンペーン、参加型開発など草の根からの開発アプローチを理解している。	5・4・3・2・1	
		⑩開発政策やガバナンス、安全保障など国家主体の開発のあり方とそれに対する住民や当事者主体の抵抗運動などについて理解している。	5・4・3・2・1	
	2-3 異文化理解および外国語による他者とコミュニケーションする力	⑪英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション力を身につけている。	5・4・3・2・1	
		⑫異文化を理解し、様々な他者に共感し、共同する受容力を身につけている。	5・4・3・2・1	
領域3 国際ボランティアの総合的実践力 国際ボランティアの総合的実践力 国際ボランティアの総合的実践力 国際ボランティアの総合的実践力 国際ボランティアの総合的実践力 国際ボランティアの総合的実践力	3-1 国際ボランティアの総合的実践力	⑬国際ボランティアの知識や技術を幅広く活用して、海外や異なる文化的背景をもった他者との交流や協働ができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		⑭ボランティアの現場あるいは後方支援組織でのインターンシップを経験する。	5・4・3・2・1	
	3-2 実践活動における学びの継続力	⑮国際ボランティアの総合的課題演習やゼミ活動を通して、課題を発見し解決する能力を身につけるとともに、将来、高い専門性を有する国際ボランティアとして活動するための学びを継続することの重要性を理解している。	5・4・3・2・1	

○評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について（300 字程度 学生記入）

--

大学コード		大学名		学部・学科	
学籍番号		氏名			

教職員提出確認

国際ボランティア実務士資格認定規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 一般財団法人全国大学実務教育協会（以下「本協会」という。）の定款第6条第2項の規定により、国際ボランティア実務士の資格教育課程の認定及び資格認定証の授与に関する必要な事項については、この規程の定めるところによる。

第2章 資格教育課程

(資格教育課程の認定)

第2条 本協会が有する資格認定証の授与を受けようとする大学（短期大学及び専攻科を含む。以下同じ。）は、本協会の会員校として入会し、併せて本協会が定める資格教育課程の認定を予め受けなければならない。

2 資格教育課程編成等に変更が生じる場合には、必要に応じ変更届を提出し、認定を受けなければならない。

(資格教育課程)

第3条 資格教育課程を設置するにあたっては、大学本来の教育課程を逸脱することなく、履修できるように配慮しなければならない。

2 資格教育課程は、本協会が学修領域ごとに定める資格到達目標を達成できるように教育課程を編成しなければならない。詳しくは「資格ガイドライン」の内容に準拠するものとする。

3 資格教育課程の開設は、原則として大学又は学部・学科単位で行う。

4 資格教育課程については、学則又は別途の規程もしくは細則において定める。

(教員の配置)

第4条 教員の配置は、次の各号によるものとする。

(1) 当該資格教育課程の必修科目を担当する教員のうち1名以上は専任教員を配置するものとする。ただし、必修科目に専任教員が得られない場合は、当分の間、選択科目に専任教員を1名以上配置する。この号においては学内兼任を専任とみなす。

(2) 前項に掲げる専任教員（複数の場合は、代表として1名）については、履歴書及び国際ボランティア教育に関する教育研究業績調書（実務実績を含む。）等を提出しなければならない。また、教員に変更があった場合には、その都度これらの書類を提出しなければならない。

(3) 当該資格教育課程を統括するため資格教育課程責任者として専任教員1名を配置する。

(施設・設備)

第5条 施設・設備は、国際ボランティア教育に必要な機能をもつものを備えるものとする。

(図書・学術雑誌等)

第6条 図書・学術雑誌等は、国際ボランティア教育に必要なものを保有するほか、視聴覚教材も保有するものとする。

(実情調査)

第7条 本協会は、教育の実施状況について、必要に応じ随時実情調査を行うものとし、不適格と認められた場合には資格教育課程の認定を取消すことがある。

(資格教育課程等の自己点検チェックリストによる調査)

第8条 本協会は、資格教育課程等認定後、会員校の資格教育課程の自己点検により質の向上を図るため、隔年度「資格教育課程等の自己点検チェックリスト」による調査を行い、会員校は、その調査結果を本協会に報告しなければならない。

(資格教育課程の認定申請・変更申請)

第9条 資格教育課程の認定申請手続、資格教育課程編成等の変更申請の手続については、資格教育課程認定申請手続要項に定める。

第3章 資格の授与

(資格の授与)

第10条 本協会は、この規程に定める要件を満たした者に国際ボランティア実務士の資格を授与する。

(資格授与要件)

第11条 国際ボランティア実務士の資格を取得しようとする者は、本協会が資格教育課程を認定した大学において、本協会が定める領域ごとに、開発能力の主たるものを含め、資格到達目標を達成しなければならない。達成には、大学が定める資格教育課程を履修し、次表に定めるところにより、所定の単位を修得しなければならない。

領域・資格到達目標の区分		開発能力	必修修得 単位数	総修得 単位数
領域 1	国際ボランティア実務全体に関する基礎知識および国際ボランティアが必要とされる国際情勢についての基本的理解と、刻々と変化する最新情報を学び続ける基本姿勢と実践学修ができる基礎能力を修得している。	・国際ボランティアについての基礎知識 ・国際ボランティアの基礎的能力 ・国際情勢についての理解	4単位 以上	26単位 以上
領域 2	国際ボランティアが必要とする幅広い実務および組織マネジメントについての理解と実践に対応できる能力を身につけ、開発協力についてのアプローチを理解するとともに、多様な社会や他者を理解しコミュニケーションを図る力を備えている。	・国際ボランティアの実務能力 ・開発協力アプローチの実践力 ・異文化理解および外国語による他者とコミュニケーションする力	6単位 以上	

領域 3	国際ボランティアの基礎知識や実務に関する知識を活用するための関連実務経験を有し、課題発見・解決力、学びの継続力の重要性を理解している。	・国際ボランティアの総合的実践力 ・実践活動における学びの継続力	2単位以上	
---------	---	-------------------------------------	-------	--

- 2 英語科目については、TOEFLのコンピュータ方式（CBT）スコア173点以上、筆記方式（PBT）スコア500点以上、TOEIC640点以上、英語検定準1級以上のいずれかの語学能力を有する場合は、その証明書をもって英語科目2単位を修得したものとみなすことができる。
- 3 大学及び大学以外の施設（大学附置教育センター、高等学校、企業等）における学修のうち到達目標を達成するためのものとして大学が認定するものは資格の単位として取り扱うことができる。
- 4 第1項に定める所定の単位を修得した者は、本協会が「資格ガイドライン」に定める到達目標達成度評価制度に基づき自己評価（到達目標達成度評価）を行うものとする。
- 5 大学が科目等履修生の資格取得を認める場合は、大学が定める資格教育課程を履修し、到達目標達成度評価を行った者に対して資格を授与する。

（資格授与の申請）

第12条 国際ボランティア実務士資格認定証は、当該大学長の申請に基づき授与する。

- 2 資格認定証の申請手続は別に定める。

（資格授与申請年度等）

第13条 前条の申請は、本協会が資格教育課程を認定した年度以降、第11条に定める要件を満たした者から適用する。

- 2 申請の期限は、毎年7月末日又は11月末日とし、資格認定証は単位修得結果の確定後、当該申請大学の学長に送付する。

（資格授与の申請費用）

第14条 資格授与の申請に要する費用は、一件あたり7,700円（税抜額7,000円）とする。

- 2 資格を申請し、申請年度中に資格を取得するために必要な科目・単位を修得できなかった者は、申請の翌年度から起算して10年以内に当該科目・単位を修得した場合に限り、申請費用を新たに徴収せずに、資格認定証を授与する。

（資格の使用）

第15条 国際ボランティア実務士の資格は、本協会の資格認定証を授与された者でなければ、使用することができない。

（資格認定証の様式）

第16条 資格認定証の様式は、別に定める。

(証明書の発行)

第 17 条 資格認定証を授与された者が授与証明を希望する場合は、資格(称号)授与証明書を発行する。

2 証明書に要する費用は、一件あたり 1,100 円(税抜額 1,000 円)とする。

附 則

この規程は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 15 年 8 月 27 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 15 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、一般財団法人全国大学実務教育協会の規程として平成 21 年 4 月 1 日から施行する。ただし、従前の全国大学実務教育協会において教育課程の認定を得ている場合は、これをすべて継承されるものとする。

附 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 2 月 20 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 28 年 11 月 28 日（消費税法の改正公布日）から施行し、平成 31 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

1 この規程は、2020 年 2 月 18 日から施行し、2021 年 4 月 1 日から適用する。

2 この規程改正前に資格教育課程の認定を受けている大学は、2020 年 10 月 25 日までに本協会の定める到達目標達成度評価制度の導入の有無を選択して資格教育課程編成確認届を提出し、本協会の確認を受けなければならない。これにより協会の確認を受けた場合には、第 2 条第 2 項に定める国際ボランティア実務士の資格の教育課程の変更承認を受けたものとみなす。この場合にあっては、第 11 条の規定にかかわらず、原則として 2023 年 3 月 31 日までは改正前の資格の取得の要件の定めるところによることができる。その後の申請手続については第 2 条第 2 項に定めるところによる。

3 前項による資格認定証の申請手続、申請費用については、第12条から第17条に定めるところによる。

附 則

この規程は、2023年4月1日から施行する。ただし、第11条第4項及び第5項の到達目標達成度評価の規定は、直ちに実施することが困難な場合は、本協会に申し出ることにより、当分の間この適用を猶予する。

附 則

この規程は、2023年9月15日から施行する。

資格ガイドライン・規程

発 行 2020 年 12 月 1 日

発行所 一般財団法人全国大学実務教育協会

〒 102-0074

東京都千代田区九段南四丁目 2-12

第三東郷パークビル 2 階

電話 03-5226-7288

FAX 03-3263-8633

E-mail jaucb@jaucb.gr.jp

URL <https://www.jaucb.gr.jp>

